

検査室が育てる研修医

チーム医療の一員として、検査室、検査技師はその能力を最大限に活用しなければなりません。生化学検査のデータ、顕微鏡観察の所見、超音波の画像、それぞれで気付いた所見は、医師を通して全て患者のために役立てられるべきです。日頃から、医師に対して積極的に“情報”や“判断”を発信するべきです。このことは医師に対する教育でもあります。本特集では、知識・経験とも浅い研修医に対する教育に積極的に取り組んでいる検査室、検査技師、検査専門医にその実態や考え方などを紹介していただきました。研修病院でなくても、たとえ検査専門施設であっても、臨床とのコミュニケーションに教育的要素を加えることは可能です。そういった視点で一読をいただければ幸いです。

(山田 俊幸)